

SORA

web magazine 2018.oct. vol.101



EGYPT RED SEA

Photo & Text : Kyu Frumi

砂漠と紺碧の狭間を漂う

MAP
CLICK!

成田から直行便に乗り込みエジプト カイロへ。本来は退屈なはずのロングフライトも、ワクワク感が勝りあつという間に到着。国内線への乗り継ぎを済ませたら紅海まであと少し。ぶっちぎりのブルーが待っている。

紅海の玄関口シャルムエルシェイクへ到着し、現地老舗ダイビングショップ「サイナイダイブクラブ」がオペレートするクルーズ船“カールトン”号に乗船した。今回のトリップにはベテランダイビングガイドのムスファタと、紅海を求めてパラオから移り住んだ日本人ガイドのユウキさんが乗船。船のオリエンテーションと器材のセットアップなどをすませるころには陽も沈み、夕飯をとり早めの就寝となった。翌朝、船のエンジンが始動し目が覚めた。デッキへ上がると砂漠の大地と、淡い朝の空が目に飛び込んできた。異国情緒はハンパない。

まずは小手調べのチェックダイブにと向かったのが、港近くの「Ras Katy」。朝一番の海は太陽も低く差し込み青味が濃い。オレンジのハナダイやソフトコーラルの色が眩しいくらい輝いているように見えた。「これだよこれ!」自分的なThis is the 紅海という光景にファーストダイブから突き刺さってしまい、時間をかけて撮影に没頭した。早くもまた来年も来ようと決意した。一本目ののに。



EGYPT RED SEA エジプト・レッドシー *Travel*





ダイナミックに攻めるラス・モハメッド

航路は西へ向かい、シナイ半島先端に突き出たラス・モハメッド国立公園に到着した。この周辺は漁なども禁止された保護区となっている。この周辺の有名ポイント「Shark Reef」はボトムが800mと深く、半島の先端に位置し、海流の入り方が複雑になるため、ナンヨウトナメウオやバラフエダイ、ギンガメアジなど様々な魚が巨大な群れを成す事でも知られる。「Shark Reef」からそのまま泳いで到着するのが「Yolanda Reef」だ。このポイントで最も目を惹くのが海中に散在する便器の山。ポイントの名前にもなっている貨物船ヨランダ号がこの場所で沈み、積荷が海底に残ったままとなってしまったという。これが良いのか悪いのかはわからないが、他の海ではまず見ることがない珍しい景観であることは間違いなだろう。





迫力の沈船とナイトダイブ

カールトン号はシナイ半島をさらに西へ回り、まずは沈船「Thistlegorm」(ティスルゴーム)で2ダイブ。第二次世界大戦時、主に南アフリカとアフリカ北部を航行し、車や戦闘機などのパーツを運んでいたイギリス軍の輸送機だ。ジャック・クストーが発見したという全長約130mの船体は今も美しく、紅海を代表するポイントとしても有名だ。1本は船尾を回り船内へのペネトレーション、もう1本は船首から外観を眺める。一枚の翼が人ひとりよりもはるかに大きいプロペラ、船尾大砲、船倉に格納されたままの車、魚が集まる船首など見所は尽きることがなく、静かな物体でありながらも迫力をまといっている。

続いて我々はラスモハメッド国立公園付近の沈船「Dun Raven」(ダンレイバン)で星雲のようなキンメドキに包まれ、ナイトダイブには最適だという「Beacon Rock」にエントリーした。ブリーフィングによると、このポイントは夜になるとミカドウミウシがよく現れるという。エントリーし、甲殻類などのナイトのレギュラーメンバーを撮影していると、ガイドのムスファタが興奮気味にライトをクルクル回している。そこには30cmはありそうな立派なミカドウミウシがいた。個人的にも久しぶりの出会いとなったミカドウミウシ。写真と動画を交互に切り替えながら撮影していたら、夜の海に情熱的なダンスを披露してくれた。



ティラン海峡へ

今度は一気にシャルム・エルシェイク東岸のティラン海峡へ向かう。ティラン海峡は主に「Thomas Reef」「Jackson Reef」「Gordon Reef」「Woodhouse Reef」という大きなリーフで形成される。まずは「Thomas Reef」へエントリー。これまで何度かこのティラン海峡には来ているが、個人的にはこの「Thomas Reef」の雰囲気が好きだ。透明すぎるほどのブルーにキンギョハナダイの鮮やかなオレンジが目染めるほど美しい。その他のリーフも同様にキンギョハナダイをはじめとする魚群は壮観だ。タイマイやマダラトビエイなども不意に現れるので、外洋側なども常に気には留めておきたい。



ティラン海峡の象徴的なキャベツコーラル。
いつまでもこのサンゴがこの地にあり続けますように。





EGYPT RED SEA エジプト・レッドシー *Travel*

今回の紅海取材でお世話になったのが、サイナイダイブクラブがオペレートする「カールトン号」。リビングスペースやダイビングデッキなども十分に広く、使い勝手は抜群に良い。エジプト人クルーメンバーも皆礼儀正しくフレンドリーなので、とても気持ちよく過ごすことができた。今回のユウキさんのように日本人ガイドも乗船する予定なので、言葉や諸々の心配もいらないうらう。



観て感じる古代エジプト

行きと帰りに立ち寄るエジプトの首都カイロでは、エジプト考古学博物館でツタンカーメンの面や保管されているミイラをはじめ、有名なギザのピラミッドとスフィンクスなどの古代エジプトの歴史に触れることができる。なかなか触れることができない文化なので、この古代遺跡観光もぜひ楽しんでもらいたい。ツアーには日本語が堪能なエジプト人が同行してくれるので、言葉の心配などもない。エジプトの歴史は本当に奥が深い。



EGYPT
RED SEA
エジプト・レッドシー *Travel*

